

# よりよい人間関係を築こう ～5つの目標～

人権・同和教育は心の教育、人を大切にする教育です。障がいがあっても差別を受けない、生まれた場所で差別を受けない、外国人、女性、お年寄り、人と違うからと言って差別を受けない、誰もが自分らしく幸せに生きていくことができる社会を創っていくための教育です。

私たち大人は、子ども達が『健康で思いやりのある子に』『自分も人も大切にして自分らしく幸せになってほしい』と願っています。人権・同和教育の目指すことと同じなのです。

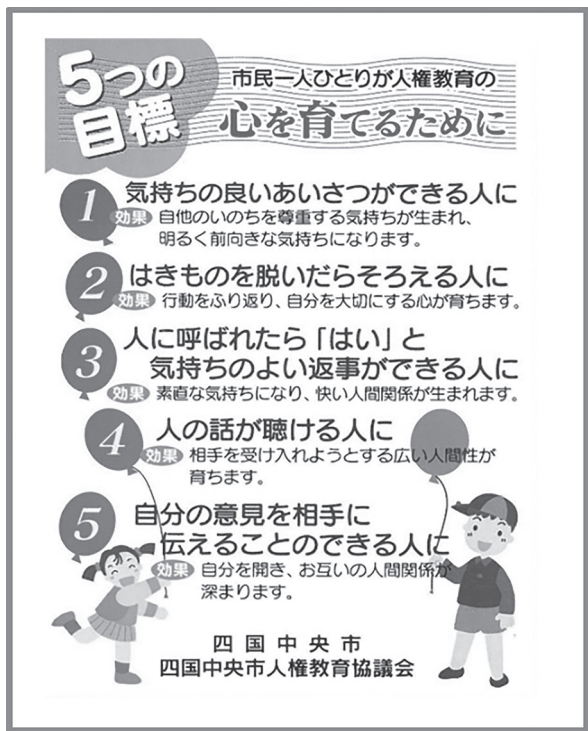
生まれたばかりの赤ちゃんの顔を見た時には、ただただ無事生まれたことに感謝し、元気に育ってほしいと願ったのではないのでしょうか。ところが、子どもが大きくなるにつれ、親として期待することが出てきます。

親や大人の思いや期待は、子どもたちにどう受けとめられているのでしょうか。

子どもの幸福度(2020) ユニセフ報告

総合		精神的幸福度		身体的健康		スキル	
1	オランダ	1	オランダ	1	日本	1	ノルウェー
2	デンマーク	2	キプロス	2	ルクセンブルク	2	スロベニア
3	ノルウェー	3	スペイン	3	スイス	3	オランダ
:	:	:	:	:	:	:	:
20	日本	:	:	:	:	27	日本
:	:	:	:	:	:	:	:
37	ブルガリア	37	日本	37	ブルガリア	37	ブルガリア
38	チリ	38	ニュージーランド	38	米国	38	チリ

日本の子どもの幸福度の結果から見てみたいと思います。ユニセフ(国際連合児童基金)が、2020年に公表した報告書に



てはいないでしょうか。親としては、しっかりさせたという思いで叱ることが多くなりますが、いつも叱っていると「あなたはダメな子」というメッセージを脳に伝えてマイナスな方向に成長します。『言葉の通りに子どもは育つ』という認識をもたなくてはいけません。脳はほめられると活性化し、やる気スイッチが入ります。子どもの能力やできたことに対し、より子どもの思いやプロセスをほめるようにすると、結果にこだわらず、好奇心をもって

由を与えること——このことは、自己否定されることがなく、子どもは自分で選んだという納得のもと「自己肯定感」を高め、自信を育むことにもつながります。人は人との関わりの中で成長します。毎日の何気ないやり取りの中で子ども達も成長し、感性を育んでいきます。『心を育てるための5つの目標』は、よりよい人間関係を築いていく上で大切にしたいことです。何となくではなく、意識して取り組

よると、総合では先進38か国中20位、「身体的健康」は肥満率や5～14歳の死亡率が低いことから1位。「スキル」は15歳の子どもの学力はトップ5に入った一方で、もう一つの指標の「すぐ友達ができる」と答えた子どもの割合がワースト2位だったため27位。生活満足度と15～19歳の自殺率から測る「精神的幸福度」については37位とほぼ最下位でした。

自己肯定感が高いと自己幸福度も高まり、あらゆるパフォーマンスや非認知力(創造力・集中力・コミュニケーション力等)の向上につながります。つまり、幸福度の高い人生を送るためにも、自分の力を存分に発揮するためにも自己肯定感をもつことは非常に大切だといえるのです。国民性もありますが、日本の若者の自己肯定感はとても低いです。

自己肯定感とは自分を認める力のことです。自分を受け入れる気持ちがないと自信や自尊心を育んでいくのです。お互いのコミュニケーションを図るため、相手を尊重するあいさつ、「はい」の返事、話を聴く——ただ耳で聞くのではなく、目を見て相手が何を伝えようとしているのか理解しようと思いを聴いてくれる人には相談することもできます。そういう環境の中で子ども達は自己肯定感を育んでいくのです。

聴く姿勢はとても大切です。が、難しいことです。子どもはもちろん身近な方の思いを受け止めることができるようになりたいものです。相手の思いを尊重する気持ちがあれば、安易に人を傷つけるような言動はとれません。

身近にいる大人が、大人同士でコミュニケーションをとることを大切にし、子ども達にも声をかけることができたら、子ども達同士もつながりがもてるようになります。

家庭、地域、職場、幼稚園や

は生まれてきません。より深いレベルの自己肯定感には欠点も長所もすべて肯定することができ、『ありのままの自分を受け入れること』です。自己肯定感『他者に受け入れてもらうこと』が土台となり、さらに『自分で自分を認めること』によってより高めることができます。

赤ちゃんが泣いたらオムツを替えたり、おっぱいやミルクを与えたりします。だっこをして目を見てコンタクトをとることで赤ちゃんは安心します。そういうことの繰り返しで、お互いの信頼感を深めることができます。子どもは周囲の大人から愛され、基本的信頼感を得ることで、人に対して期待感をもつことができるのです。

家族を送り出す朝、「おはよう」「行ってきます」「行ってらっしゃい。気を付けてね」等のやりとりはありますか。「早く起きて」「早く食べな」等とせかす言葉や「何回言うたら分かるん」と怒りの言葉をぶつけ

保育園、学校、四国中央市に住むすべての人が具体的に取組んでいくことで、お互いを認め合い受け入れ合う豊かな関係性が生まれ、自分自身を振り返ることもできます。地道なことです。この小さな積み重ねが家庭や地域を「誰にとっても心地よい」場所に変えていくのではないのでしょうか。

## 人権・同和教育推進者 養成講座のご案内

回	日	内容
1	6/19 (月)	人権問題の解決を
2	7/10 (月)	差別の現実に学ぶ
3	7/24 (月)	障がいがある人の人権 (理解)
4	9/11 (月)	ワークショップ (体験学習)
5	9/20 (水)	家庭・地域における人権

ところ：しこちゅ～ホール  
朝の部：10時～ 夜の部：19時～

